

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 17 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏 名	朝比奈 剛
研究課題	アメリカなどアングロサクソン諸国における1980年代以降の格差の拡大～労働組合運動などの社会活動やソーシャル・キャピタルとの関係で～				
研究キーワード	貧困、格差・不平等の拡大、労働組合、SDGs、ソーシャル・キャピタルなど	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	1. 貧困をなくそう	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう	

1. 研究成果の概要

本研究では、アメリカなどの先進国における社会的課題である所得格差の拡大、教育や健康における不平等といったSDGsが示唆する現代社会の持続“不可能性”を、新自由主義、市場主義の強いアメリカなどのアングロサクソン諸国を対象に研究した。その際に、労働組合運動や市民の政治参加などを、ソーシャル・キャピタルを視点に、実態と課題を把握することで、課題解決の方向性も検討している。

理論的な研究はもちろんのこと、課題解決に向けた取り組みについては、すでに実践されているような事例、政策や活動に関する調査・研究も行った。

こうした研究活動の中間報告として、2024年のアメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利などを、個人主義・一国主義・経済的利益の偏重というアメリカの数十年間のトレンドの延長として位置づけ、下記のような研究報告をした。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文(査読あり)】

ナシ

【著書・論文(査読なし)】

ナシ

【学会発表等】

「大統領選挙の背景にある分断と対立のトレンド～労組の影響力の復活?!」

(基礎経済科学研究所・東京支部の研究会：2月15日(土)：駒澤大学)

3. 主な経費

研究活動のために、書籍、文具、PC用品などを購入した。

4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)

(本文は2ページ以内にまとめること)